

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 氏名 | 田端 哲也 |
| 授与した学位 | 博士 |
| 専攻分野の名称 | 医学 |
| 学位授与番号 | 博甲第5678号 |
| 学位授与の日付 | 平成30年3月23日 |
| 学位授与の要件 | 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |

| | |
|--------|---|
| 学位論文題目 | Characteristic Distribution Pattern of CD30-positive Cytotoxic T Cells Aids Diagnosis of Kikuchi-Fujimoto Disease (CD30陽性細胞傷害性T細胞の特徴的な分布は菊池・藤本病の診断の補助となる) |
|--------|---|

| | |
|--------|---------------------------|
| 論文審査委員 | 教授 鶴殿平一郎 教授 岩月啓氏 准教授 佐田憲映 |
|--------|---------------------------|

学位論文内容の要旨

組織球性壊死性リンパ節炎（菊池・藤本病）はアジアの若年成人女性の頸部リンパ節に好発する原因不明の疾患である。組織学的にはリンパ節に地図状の壊死巣がみられるが、時に大型芽球が多数浸潤し、リンパ腫との鑑別のため CD30 の免疫染色が用いられる。しかし菊池・藤本病における CD30 陽性細胞の広がりや分布についての詳細な検索はなされていない。今回我々は、菊池・藤本病症例のリンパ節における CD30 陽性細胞について検討し、臨床病理学的解析を加えた。また、全身性エリテマトーデス (SLE) や反応性リンパ過形成 (RLH) 症例とも比較検討した。その結果、菊池・藤本病の壊死巣周囲では CD30 陽性細胞が多くみられ、それらは細胞傷害性 T 細胞だった。SLE 及び RLH と比較すると、菊池・藤本病の壊死巣周囲で CD30 陽性細胞が有意に多く、壊死巣では CD123 陽性細胞が多くみられた。SLE については菊池・藤本病との鑑別に苦慮する場合もあるが、CD30 陽性細胞の分布を見ることが診断の補助となる可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

組織球性壊死性リンパ節炎（菊池・藤本病）はアジアの若年成人女性の頸部リンパ節に好発する原因不明の疾患である。大型のリンパ芽球浸潤が顕著であるため、リンパ腫との鑑別のために CD30 の免疫染色が用いられている。

本研究では、CD30 陽性細胞のリンパ節における分布およびその他のマーカーを用いてさらに詳細に検討を加えた。その結果、CD30 陽性細胞はリンパ球のうちの CD8 陽性 T 細胞であること、壊死巣の周囲に存在すること、壊死部位には CD123 陽性細胞が多く見られることを明らかにした。審査委員からは、全身性エリテマトーデスや反応性リンパ過形成、結核などとの鑑別、また病態生理につき多くの質問が提示されたが、適切に議論がなされた。

本研究は、CD30 陽性細胞の分布および CD8T 細胞との関係における病理学的解析が、菊池・藤本病の鑑別診断の補助となりうることを示した重要な知見である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。